

よしかわ通信



りん どう
凛 道

新緑の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大が社会問題となって1年以上たちました。4月12日より高齢者に対するワクチン接種が始まった地域もあるようですが、ワクチンの供給が極めて少ない状況で、全国的に地方まで行きわたるのはまだまだ時間がかかるようです。茨城県北部は感染者は少ないとはいえ、マスク着用、イベント等が開催できない、大人数での会食が出来ない、旅行に行けないなどの制約は都会と同じですから、ストレスはたまります。ウイルスは変異を続け、ワクチンの効果も完全には期待できないとなると、今のこの状況での生活をいかに楽しめるか、工夫をしていくことが重要です。

人口の少ない高萩市だからこそ、工夫次第では密にならずにできるイベントもあるのではないかと思います。いつまでも我慢だけをするのではなく、みんなで知恵をしばり、感染を抑えて人とのコミュニケーションを保てる方法を模索していきましょう。



発行

高萩市議会議員

よし かわ どう りゅう
吉 川 道 隆

高萩市安良川686

TEL 0293-24-0833

FAX 0293-22-3340

ホームページ

<http://www.douryu.net>

E-mail

info@douryu.net



小学校校舎の改善について

質問 平成27年につくられた、秋山小学校北校舎の天窗から差し込む光が非常にまぶしくて困っている。できた当初からずっと言われているが、改善されない。光が差し込む場所ではとても勉強できないし、時間によっては先生もまぶしく感じる。授業でプロジェクターを使ってスクリーンを見せようとしても明るすぎて見えない。普通の窓ならカーテンを閉めればいいが、高い位置の窓でカーテンがないから、光を遮ることができない。応急処置で、すべての窓に模造紙を貼って光を遮っているが、きちんと改善するべきだと思うが、どうか？

教育部長答弁 適度な日照と通風を確保するため、教室上部に設置された窓については、竣工当初からまぶしいとの声があり、平成27年度にすりガラスに交換した。まぶしさは解消されていないということなので、根本的な見直しを含め、状況確認を行い、改善していく。

※質問後、チェーンで開閉可能な、ロール式のカーテンが設置されました。

質問 松岡小学校は、オープンスペースのある校舎で、建設当時は先進的なデザインで絶賛されていたが、実際使ってみると、クラス同士の区切りがないので、隣のクラスの声が全部聞こえる、授業に集中できなくて困っている。途中で間仕切りを入れてもらったから、少しは解消されたが、先に終わったクラスの子供が教室の中を通るからうるさいそうだ。廊下にも間仕切りをつけるなど、対応できないか？

市長答弁 間仕切りの増設については、法律上、防火・避難に関する規制も発生する。学校現場の意見を聞いて、改善する必要性、可能性を検証して対応していきたい。

質問 建設当時、高いお金をかけて設置した蓄熱暖房機、各教室とフロアについているが、電気代が高くて今は一切使っていない。その代わりにストーブを導入したが、最近の猛暑によってエアコンが導入されたのでストーブも使わなくなった。蓄熱暖房機は当時いくらだったのか？撤去してオークションとかに出せないのか？撤去費用はいくらか？

教育部長答弁 蓄熱暖房機は43台、当時のお金で約632万円。撤去費用は試算していないのでわからないが、耐用年数から考えると売り払いは非常に難しい。



花貫溪谷の観光整備

高萩市の花貫溪谷の紅葉は毎年大勢の観光客が訪れるようになっている。この高萩の美しい紅葉を高萩市の名所として、より多くの方に見に来ていただくために、もっといろいろ工夫できるのではないかとと思う。そこで、花貫溪谷を観光地としての課題は何か？ということを考えてみた。

おもてなしトイレの整備

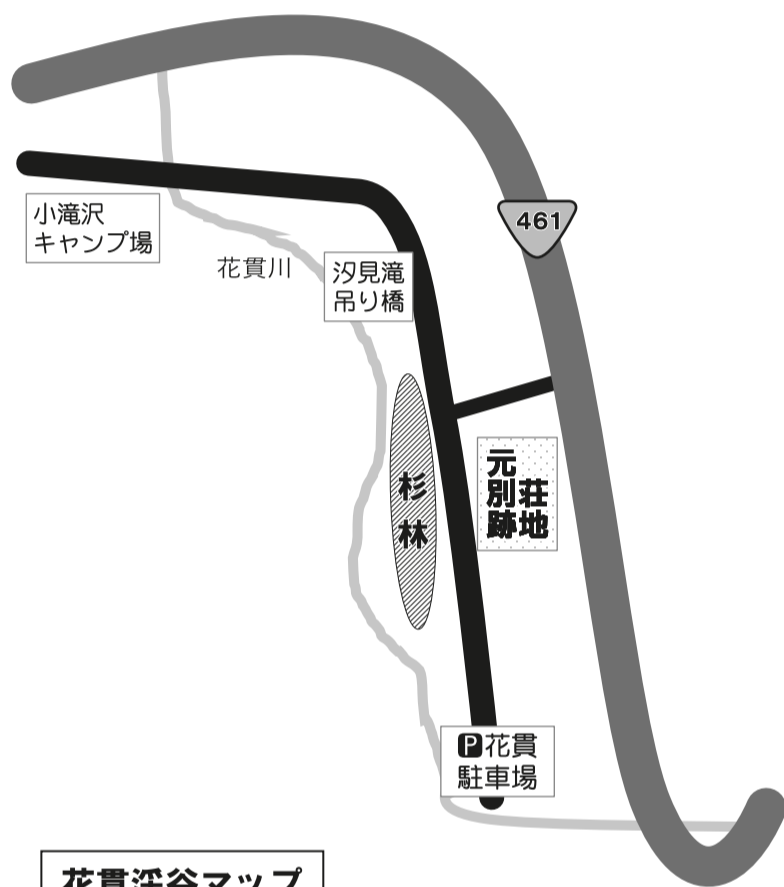
質問 花貫溪谷の課題として、トイレの整備が必要。今、紅葉まつり期間中の駐車場付近に設置される簡易トイレと吊り橋付近の古いトイレ、ずっと上の滝沢キャンプ場の上に作られた新しいトイレがあるが、紅葉を見に来た方は、駐車場から歩いて吊り橋まで行くことを考えると、キャンプ場のトイレまでは行かない。吊り橋の下のトイレは古くて暗くて、できるなら入りたくない。簡易トイレもまた、狭くてにおいも気になり、気持ちよく使えるものではない。これまで、「古い・暗い・汚い」と言われてきた観光地の公衆トイレを、観光客に対するおもてなしの象徴として、便器の洋式化や温水洗浄便座の設置など最新式に改修する動きが出ている。トイレのきれいさが観光地の印象を向上させると言われている。和歌山県は以前、「和歌山おもてなしトイレ大作戦」として、市町村が管理する観光地のトイレすべてを目標に、古い和式便器を洋式に交換し、温水洗浄便座を取り付けた。観光地のトイレに限らず、今はどこに行っても、乳幼児用のいすやベッドのついた、車いすでも入れる広さの洋式で温水洗浄便座のついたトイレが多い。子供連れからお年寄りまで、外国人も気持ちよく使える「おもてなしトイレ」の整備は、観光地として必要。

おもてなしトイレを設置できる広い場所として、昔、山荘か何かがあった場所の廃墟が取り壊され、きれいに整地されている。遊歩道沿いで吊り橋にも近く、トイレを設置するにはいい場所だと思うが、あの土地を使うことはできないのか？そこに「おもてなしトイレ」を作ってはどうか？

市長答弁 元の別荘跡地が今整備されているところ、高萩市の所有者がぜひ観光に使ってほしいということで、大変大きな面積だが、寄附していただいた。まずは吊り橋に行く途中の森林の環境整備を含め、総合的におもてなしトイレの設置なども検討していきたい。

質問 せっかく観光振興のために使ってほしいと寄附していただいたなら、一層、そちらにおもてなしトイレの設置と、毎年駐車場のところに出店している飲食スペースをそちらに移動させた方がいいと思う。駐車場のところは観光協会の案内所だけにして、飲食はゆっくり上でしていただきたいと思うがどうか？

市長答弁 観光地の整備というのは、私の公約であったので、何とか近いうちに実施していきたい。その中でご協力いただける地権者には、50年もたっている杉山を伐採していただいて、そこに新たに美しく紅葉するいろんな植栽をしてそこにスペースを設けて、テラスカフェとか、お団子屋さん、お焼き、焼き魚などこの観光地に行ってもあるようなものに近づけていけるような整備をして、国道461号線から観光バスも入っていき、駐車できるようなイメージを持っている。



花貫溪谷マップ

電動カートの導入

質 問 他の人気の紅葉の観光地にはゴンドラやロープウェイを設置してお客さんを山の上に案内することが出来るけれど、高萩にはない。ある程度の距離を歩かなければいけない。歩くことが平気な元気な方がいいが、やっぱり足や腰が痛いという悩みはあるけれど、いい景色を楽しみたいと思う方は、歩かなければいけない観光地には来てもらえない。そこで「電動カート」の導入を検討してはどうか。遊園地の中や広い公園の中を移動するような電動カートであれば、ゆっくり景色を楽しみながら坂を登ることができる。駐車場口から先ほどの市有地まで、そこからさらに小滝沢キャンプ場のところまで行って、また降りてくる、帰りの方を乗せながら降りてくることことができる。実は、従来からある電動カートは、公道を走ることはできなかったが、国土交通省が推進している、グリーンスローモビリティを導入すれば、公道をゆっくり、観光客を乗せて上ることができる。「グリーンスローモビリティ」とは **時速20km未満で公道を走る事が可能な4人乗り以上の電動パブリックモビリティのこと。電動だからガソリンを使わないため、CO2削減につながり、家庭用コンセントで充電でき、ソーラーパネルをつければ走行しながら充電できる。**時速20km未満に設定されているため、景色を楽しみながら歩いて登る歩行者に対しても安全に走行でき、小型なので吊り橋に行く途中の狭い道でも活用できるし、ドライバーの方がガイドをしながら走ることも可能。例えば、一日何回乗っても100円とか200円とか設定すれば、お年寄りや子供たちにきっと喜んでもらえて、また来たくなるのではないかな？



笠間芸術の森公園内を走行する電動カート

市長答弁 紅葉まつり期間中は、歩行者の安全確保のため、車両通行止めになっているので、高齢者や障害者の方々には不便をかけている。提案の電動カートは大変有意義なものであると考えられるので、観光協会とも協議して検討していきたい。

質 問 駐車場から吊り橋へ行く手前の川沿いのスペースに、大きな杉の木が生えている場所があるが、日陰になって暗くなってしまいうから、新しく紅葉を植えても育たないと聞いている。地権者がいるから勝手にはできないが、その木を伐採して整理すれば、川がよく見えるようになるし、新しく紅葉を植えることができるのではないかな。地権者をお願いして市に譲っていただくとか、無償で貸していただくとか、交渉できないのかな？そして、もし使わせていただけたら、大きな杉の木を切って、**人が歩く遊歩道を新たに設置した方がいいのではないかな？道路を歩くより川沿いを歩いた方がいい。**そして、今の遊歩道に先ほどの電動カートを走らせることができれば、混雑していても大丈夫かと思うが、どうか？

市長答弁 平成24年から5年間に、花貫渓谷入り口から汐見滝吊り橋までの渓谷沿いに69本の紅葉を高萩市観光協会において植樹している。令和元年には歩行者の安全確保、景観向上の観点から枯れた紅葉の伐採を行った。吊り橋周辺の地盤が岩場で植栽が難しい。大きな杉の木が生えている場所は、5,6人の所有者がいるので、皆さんにご協力いただければ、明るい景観が作れるように検討していきたい。川べりを散策できるような遊歩道も検討していきたい。

新たな魅力発信

質 問 あまり知られていないが、吊り橋よりも手前の不動の滝と乙女の滝がよかった、という意見がある。紅葉も新緑もない時期でも、滝は一年中いつでも見られるし、私も見に行ってみたら、滝つぼの水がエメラルドグリーンでとてもきれいだった。この滝をもっとPRすれば、紅葉シーズンだけではなく、いつでもお客さんに来ていただけるのではないかな？より多くの方に高萩市に足を運んでもらうために、アウトドアと自然を生かした観光に力を入れていくべきだと思っている。そのためにも住んでいる私たち自身が高萩市の良さをもっと理解し、自信をもってPRするための方法を考えていくべきである。

市長答弁 不動の滝と乙女の滝は、神秘的な景観で花貫駐車場からも近くて非常に条件がよいが、吊り橋と比較すると認知度は低く、花貫渓谷へ訪れても、滝に足を運ぶ観光客が少ない。滝へつながる遊歩道や手すりは市民ボランティアのご協力で設置していただいたが、現在は老朽化している。今後、観光協会と連携し、手すりの修繕や案内看板の増設など環境整備を検討するとともに、積極的なPRに努めていきたい。また、不動の滝には「カッパ伝説」があり、高萩の陶芸家の方で、邪気を追い払うカッパの作品を作っている方がいるので、そういったものも観光PRに含めたい。水辺のアウトドアアクティビティとしてシャワーウォーク体験というものも行っている。

防災教育について

質 問 自然災害はいつ起こるかわからず、いつ何が起きても対応できる「生きる力」をつけるために、防災教育が進められている。学校における防災教育は、現状の高萩市での取り組みはどうしているのか？

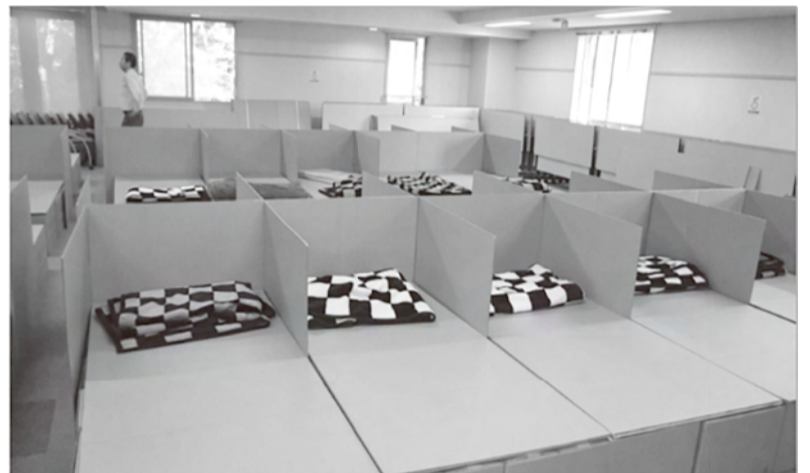
平成30年度、秋山小中学校において、茨城県の地域と学校が連携した防災教育事業モデル校として、防災訓練を行ったということで、3カ月前から学校で専門家の方の学習会を開き、当日は地域の方々もいっしょに避難訓練を行ったことで、防災に対する意識が高まったという記事があったが、その後は継続的に何か行われているのか？

秋山小中学校地区をモデルとして、高萩地区、松岡地区についても同じような防災教育事業を行ったのか？

教育部長答弁 小中学校において一年間に3回程度、避難訓練を行い、地震や津波、洪水等の災害時の対応、保護者への引き渡し訓練などを行っている。事前・事後学習を通して、児童生徒の一人ひとりの自然災害に対する知識や防災意識が高まる指導をしている。特に小学校においては平成21年より東北福祉大学と高萩市が締結した災害時における相互支援に関する協定に基づいた防災訓練を毎年ローテーションで行っている。県の教育委員会のモデルとして実施したものについては継続して実施はしていない。

質 問 地域によっては、災害時に避難所となる中学校での体験キャンプを行っている。避難所となったときに使う、段ボールベッドの作り方や災害用トイレの使い方、けがをした時の応急処置などを習ったり、炊き出しや非常食を使った食事の体験をしながら、学校の体育館に宿泊する。そうすることで、いざ避難しなければならなくなったときに、スムーズに対応することが出来るようになる。最近の地震の時、一番震源に近かった福島県では避難所が設置され、コロナの感染対策を取るために、体育館の中に各家庭用ごとにテントを張って過ごしていた。防災教育事業の一環として自分たちの学校の中でそういった防災キャンプを体験してみてもどうか？

例えば、中学1年生か、2年生には学校の体育館で防災キャンプ行って、段ボールベッドの作り方を体験することにする。段ボールベッドは組み立てて使った後、もう一度、たたんで収納するなど繰り返し利用することが出来るので、高萩、秋山、松岡と順番に利用すれば無駄にはならない。備蓄している非常食も賞味期限があるから、こういうところで少しずつ使って常に新しいものが入るように循環させることができる。実施してはどうか？



避難所で使う段ボールベッド

教育部長答弁 防災キャンプは行ってないが、東北福祉大学との連携の中で、松岡小学校において希望者による1泊2日の萩っ子防災教室を実施している。秋山小学校ではPTAの父親の委員会の主催により屋外体育宿泊体験会を、小学校5、6年生の希望者を対象に、夏休みに実施している。肝だめしやキャンプファイヤーもあるが、段ボールハウスを運動場に作成し寝泊まり体験をしている。今後、コミュニティスクールの機能を生かして学校と地域が連携した防災教育の在り方について検討していきたい。

質 問 何年か前に、各小中学校敷地に災害用のマンホールトイレを備蓄された。その使い方について、つなげられるマンホールがどこにあって、どうやって設置するのか、市役所の職員でも知らない人がいるようだ。職員が知らなくては市民に説明も出来ない。職員の中で使い方をしっかり習って、実際使ってみて、子どもたちや地域の方に説明するということにしないと、いくらいいものがあったとしても宝の持ち腐れになる。担当課の職員ばかりではなく、出来るだけ多くの職員が習得すべきだと思うが、どうなのか？

せっかく設置しても、どういったときに使えばいいのか、どんな使用方法なのか、知らなければ使えない。消防職員や市の職員だけが知っていても、いざとなったときに、説明してまわるのは大変。子どもたちや地域の方がたとえ一部でも知っていれば、すぐに利用できる。学校と地域の連携した防災教育を検討すべき。

市長答弁 マンホールトイレは災害時に下水道管路にあるマンホールなどの上に簡易的なトイレ設備を設け使用するもの。令和3年度の総合防災訓練ではより実践的な訓練を予定しているので、マンホールトイレの設置訓練も組み入れて実施していきたい。